

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”
 ～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和4年度福岡教育事務所管内「子どもの読書活動研修会」 ～子どもの読書活動を豊かにするために～	
期日	令和4年9月30日（金） 13:30～15:20（受付13:15～）	
参加者	65名（オンライン参加）	
日程	時 間	内 容
	13:15	【受付】
	13:30	【開会行事】
	13:35	
	13:45	【説明】「本研修会のねらいについて」 福岡教育事務所 社会教育室 社会教育主事 吉川 しのぶ
		【講話】「公共図書館と学校図書館の連携について」 広川町立図書館 館長 梶原 一美 氏
	14:30	【意見交流】「子どもの読書活動を連携してすすめていくために」
	15:15	【閉 会】
15:20		
活動の実際	<p>【講話】</p> <p>広川町立図書館館長の梶原一美氏に「公共図書館と学校図書館の連携について」と題して、講話をしていただきました。梶原氏は、どの子どもにも本が届くようにと日々ご尽力されています。広川町立図書館は、令和2年4月に子どもの読書推進活動で文部科学省表彰を受けられており、その広川町立図書館の様々な取組をご紹介いただきました。年間を通して、子どもが読書に触れる機会をたくさんつく</p>	 <p>【梶原氏による講話の様子】</p>

られています。小・中学生の読書リーダー養成講座や中・高生を中心としたビブリオバトルなど、また、ブックスタート（0歳児検診時）、読書への階段（3歳児検診時）、家族でのうちどく（6歳児小学校入学説明会時）を実施し、親子で本に触れる機会をつくられていることもお話しいただきました。

参加者のアンケートでは、「図書館でのビブリオバトルの開催や、ブックスタート後、3歳、6歳と途切れさせない取組はとても良いと思いました。」や「目的をもって継続的に事業を実施することで、全ての子どもが本と出会い、本や図書館に関心をもつためのきっかけづくり（機会の充実）、保護者への啓発につながると思いました。」など、読書活動を推進をしていく上で子どもが読書に親しむきっかけづくりの大切さを実感されている感想がありました。

【意見交流】

「公共図書館と学校図書館との連携について」Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用し、各市町で意見交流をしていただきました。市町の参加者人数が少ないところは、他市町の方と意見交流をしていただきました。まず、学校、行政（公共図書館等）、読書ボランティア等様々な立場の方々が1つのグループでそれぞれの取組について話していただきました。その後、それぞれの立場での取組をもとに、今後各市町で連携して実践していくことについて交流していただきました。

参加者のアンケートでは、「公共図書館の取組がよくわかったので、その取組に参加できるようにしたい。」（学校教育関係者）「意見交流をしたことで、新たに公共図書館の司書が学校へ出向いて出前授業やおはなし会を実施するなどの案を出して、今後につなげていけそうです。」（行政関係職員）「子どもたちの読書のために、と漠然とやってきたボランティア活動でしたが、福岡県全体としての取組の一端を担っているのだと自覚して、とても嬉しく、励まされたような気持ちになりました。」（読書ボランティア）などの回答がありました。意見交流をしたことで、それぞれの立場で取り組んでいることの共有ができ、今後の取組を連携して行うきっかけになったという感想が多くありました。また、今後の具体的な取組を考えられている市町グループもありました。

全体を とおして

参加者のアンケートでは、「今回、小学校の先生とお話をし、中学校へ入学する子が読んでいた本を教えてもらい、続けて読めるように体制を整えていこうと思いました。」や「市内で子どもの読書に関わる人たちの連携をさらに進めていくことの必要性を感じました。」などの感想があり、それぞれの参加者が今後の取組のヒントを得ることができたのではないかと考えます。

福岡教育事務所社会教育室といたしましても、この研修会で学んで終わりではなく、参加者が学んだことを一つでも実践していただけるように引き続き支援を行っていきたいと思います。